



現場からの発信 NIPPONの 服づくりのワザ

自らの強みを
発見しよう！

若い世代に伝えたい！
ものづくりの仕事ってステキだよ

第7回 全国アパレルものづくりサミット
2019年12月14日(土) 午後1時～午後5時
学校法人文化学園 20階ホール(A201)
参加費2,000円(学生500円) ※懇親会参加は別途2,000円

「日本発ものづくり提言プロジェクト」実行委員会 主催

・委員長: 貞末良雄 (メーカーズシャツ職人協会) ・委員: 稲荷田征 (文化ファッション大学院大学名誉教授)、久米信行 (久米繊維工業相談役)、森奥信孝 (岩手モリヤ社長)、近藤繁樹 (日本アパレル工業技術研究会会長)、佐藤正樹 (佐藤繊維社長)、高倉均 (匠の夢取締役/マツオインターナショナルマーケティング支援室長)



日本発ものづくり提言プロジェクト公式 Facebook
<https://ja-jp.facebook.com/monozukuri.japan/>



開催案内

アパレルやテキスタイルなど繊維製品の国内製造の値打ちを広く伝え、技術・技能の継承と発展を求めするために始まった「全国アパレルものづくりサミット」は今年で7回目を迎えます。今回は日本全国から現場で活躍する実務担当者が「これぞNIPPONの服づくりのワザ」と自信を持って言える6つの実例を披露します。「日本発ものづくり提言プロジェクト」実行委員会としては、国内製造のトップレベルの技術・技能を大切に思う広範な業界人とともに、これからアパレルやテキスタイル業界でプロをめざす学生たちに参加してほしいと思っています。お誘いあわせの上、ご参加ください。

◆日時：2019年（令和元年）12月14日（土）午後1時～5時

＊サミット終了後に登壇者、参加者、関係者が集う懇親会があります。

◆会場：文化学園20階Aホール

◆テーマ：「現場からの発信 NIPPONの服づくりのワザ」

◆サブテーマ：「自らの強みを発見しよう！」

「若い世代に伝えたい！ “ものづくりの仕事ってステキだ”」

企画趣旨

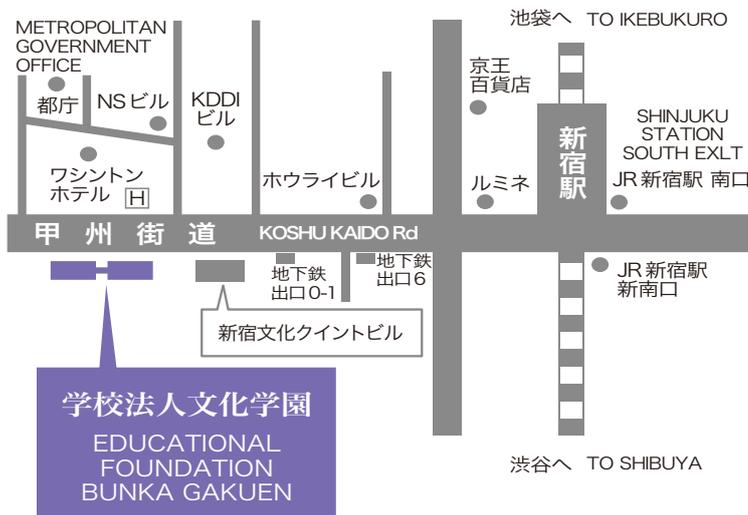
「全国アパレルものづくりサミット」はこれまでメイド・イン・ジャパンの重要性、国内の縫製工場を中心のものづくりを取り巻く環境や方向性などを訴えてきました。

日本のテキスタイルは、すでに世界から高く評価されていますが、アパレルやファッションに関する分野でも、素晴らしい技術・技能がたくさんあります。しかし、伝えなければその存在は伝わりません。

そこで、今回のサミットではテキスタイル、ニット、アパレル縫製の各分野で、メイド・イン・ジャパンの技術・技能の高さを証明する実例を揃え、世界に類例のない価値を生み出す「ワザのプレゼンテーション」を行います。また、その技術・技能を継承しようと、ものづくりの世界に飛び込んで生き生きとがんばる若い世代にスポットを当てます。

本サミットを通じて、ものづくりに携わる人たちにもう一度自社の強みを確認していただくと同時に、ファッション業界の一人でも多くの人にメイド・イン・ジャパンを再認識してもらえたいと考えています。また学生や若手の人たちにもものづくりの楽しさを知っていただく機会になればと願っています。

会場アクセス



学校法人文化学園 20階Aホール

JR（山手線・中央線・総武線・埼京線・湘南新宿ライン）、小田急線、京王線、都営新宿線、都営大江戸線、丸ノ内線、西武新宿線 新宿駅下車 新宿駅から徒歩で約8分

JR新宿駅南口より、甲州街道に沿って初台方面へ徒歩8分

構成

—ごあいさつ—

「日本発ものづくり提言プロジェクト」実行委員会 委員長

・貞末 良雄
メーカーズシャツ鎌倉 会長



パート1

ユニチカテキスタイル常盤工場(岡山)×鎌倉シャツ

——「400番手」シャツって、何がすごいのか!!

- ・ユニチカテキスタイル株式会社
代表取締役社長 山上 清
- ・メーカーズシャツ鎌倉株式会社
取締役生産統括 佐野 貴宏

パート2

高山CHOYAソーイング(鹿児島)×モデリスト柴山登光

——どこも出来なかったシャツジャケットを、鹿児島の女性技術者が縫い上げた

- ・高山CHOYAソーイング株式会社
取締役会長 阪本 英信
生産課主任 池水 かおり
- ・日本モデリスト協会会長 (有)サン・モードスタジオ社長 柴山 登光

パート3

サンヨーソーイング(青森)

——これが、50年の歴史を持つコートづくりだ

- ・株式会社サンヨーソーイング
工場長 和田 秀一

パート4

丸和繊維工業(東京)

——アパレル業界の下町ロケット! 「自分たちの想いを宇宙へ」
～着る笑顔と縫う笑顔をつなぐ下町縫製工場～

- ・丸和繊維工業株式会社
常務取締役 伊藤 哲朗

パート5

佐藤繊維(山形)

——世界に挑む「Sato Seni」の若手たち
「川上から川下まで一貫してつくりあげる高付加価値」

- ・佐藤繊維株式会社
ニット部営業課課長 齋藤 愛

「全身で感じた!世界が求める日本製品」

- ・佐藤繊維株式会社
外販部輸出課課長補佐 五十嵐 健太

パート6

古橋織布(静岡県浜松市)

——文化卒→遠州 “さんち、へ飛び込んで8年で見つけたこと

- ・古橋織布有限公司
企画営業 濱田 美希

★新企画

「工場と学生の出会いの広場」を新設します!

地方移住をいわず、ものづくりの現場に飛び込む若者は着実に増えています。通常の就職活動では出会えない有力工場との出会いの機会を参加した学生に提供します。会場の一角にテーブルを置き、これまでサミットに登壇して頂いた企業や今回の登壇企業のパンフレットを置く一方、工場ではたらくということはどのようなことか、夢と現実をめぐる質問に、リアルに答えます。学生たちの就職を支援する服飾系教育機関の教員や職員の皆さんの参加も歓迎します。

全国アパレルものづくりサミット 12・14 第7回

「日本発ものづくり提言プロジェクト」実行委員会 主催 受付係行き

参加登録票

ご提出先 F A X : 03-5261-7075
メールアドレス : info@apako-news.com

※会場整理の関係上、事前参加登録制とさせていただきます。
※参加費は当日受付でお支払いください。
※複数参加の場合は、恐れいりますが、コピーを取りお申し込み下さい

申込み締切日

12月6日(金)

(ふりがな)	
※お名前	

ご連絡先	〒□□□-□□□□
	ご住所 都道府県 市区町村
	TEL
	E-Mail

所属 (会社・団体・学校)
どちらかに○を付けてください。
・社会人 (職種 :) ・学生
どちらかに☑を付けてください。
<input type="checkbox"/> サミットのみ参加 <input type="checkbox"/> サミット+懇親会

参加登録票に記入していただいた、ご質問やご意見を討論に生かします。聞きたいことやご意見を簡潔にお書き下さい。

パート1で聞きたいこと

パート2で聞きたいこと

パート3で聞きたいこと

パート4で聞きたいこと

パート5で聞きたいこと

パート6で聞きたいこと

「第7回アパレルものづくりサミット」に期待すること